

戦後最大の震災を教訓に 東南海・南海地震に備えよう

平成23年3月11日。この日、世界最大級の地震が東日本各地を襲いました。西条市では、この未曾有の災害を教訓として、今後の防災対策への取り組みに生かすべく、市防災対策顧問の左官正雄氏と危機管理課職員を被災地に約1週間派遣し、被災地での情報収集に努めてまいりました。

視察したのは、特に被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県の被災地で、3月23日から29日の間、被災情報の把握に当たりましたので、その状況を市民の皆さまにお知らせいたします。

被災された多くの方々に対し、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

視察地はいずれも過去に例をみない地震、津波災害に見舞われ、住家等の被害、ライフラインの断絶、多数の死傷者や行方不明者が出るなど、その被害は想像を絶する甚大なものでした。

被災地に入ると、余震が多数発生しており、海水や火災後の焦げたにおいが立ち込めていました。津波被害にあった海岸付近の住

宅街などは建物が流されたことで、海から数キロ先が見渡せるなど街の面影を残しておらず、あまりの被害の大きさに言葉がありません。

そのような中、多くの方々が、お互いに助け合い、励まし合いながら、復興に向けて歩み始めています。

西条市においても、市民の皆さまと力を合わせて、被災された方々への生活支援、被災地への復興支援に全力で取り組んでまいりますので、さらなるご協力をお願いいたします。

「逃げろ、死ぬな、助けろ」

西条市の防災は「逃げろ、死ぬな、助けろ」を合言葉に、市民の皆さまとともに、災害に強いまちづくりを進めています。

現在までに、総合防災マップや東南海・南海地震が起きた際の震度分布図、津波浸水予測図などを作成して、皆さまに提供してまいりました。

そして、一人ひとりが防災意識を持つためにも、自主防災組織の育成や活性化を図り、12歳教育で子どもたちの防災意識を高めることが大切だと考えています。

今年度も市民の皆さまと一丸となって、災害に立ち向かう強い「チーム西条」となるよう取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

町が消えた！ 津波の脅威

西条市防災対策顧問 左官正雄

平成23年3月11日14時46分頃、マグニチュード9の巨大地震が東北地方太平洋沖で発生。このたび、この大震災の被災地を視察しました。

今回の大震災の特色は、津波が東日本太平洋沿岸の広範囲に甚大な被害をもたらしたことです。津波は、想定された規模をはるかに超え、津波避難場所となっている所をものみ込み、多くの人々や家屋等押し流し、その被害の大きさは、一地方自治体のみでの対応を困難なものにしています。

被災した町で見せつけられた現実は、「町が消えた」という表現そのもののように、一様に建物のほとんどが津波に押し流され、遠くまで見通せ、そこにあつたはずの町そのものがないということです。

また、町には生活の音が消え、人々の話し声などはなく、時折、救援活動等の重機やヘリの音が聞こえるのみの静寂な世界となっています。日々営まれていたであろう生活はそこにはありません。町がなくなり、いまだ行方不明の方が多数おられ、船が陸地で、車が海、農地が海